

〔再校江戸砂子〕阿宅丸の舊地 新大橋のすこし北也

此あたけ丸といふ御船は、元來小田原北條家の軍船にて、樟木をもつて凡長三十八間胴の間十  
八九間ありしよし、寛永十年、御船手向井將監忠勝に仰付られ、相州三崎より江府へ御取よせに  
て、同十二年六月、忠勝に命せられ、上覽徳川家光ありしに、天和年中、ゆへありて此船御たゝみあ  
そばされしと也、其節の俗説に、此船もと伊豆國下田浦にてうちたる故にや、御船出の度毎に、船  
のひゞき、自然といづへゆかんくとうなりたるゆへ、御潰し遊されしよし、風聞と也、尤此船江  
戸入のとき、先祖さる若勘三郎に金塵を下され、音頭をとり、江戸湊へ引入しと申傳也、

〔海軍歴史二十三〕船譜中略

政府洋製諸船

鵬翔丸 千秋丸 健順丸 千歳丸 順動丸 昌光丸

長崎丸 一番 協隣丸 長崎丸 太平丸 長崎丸 二番 翔鶴丸

神速丸 黒龍丸 大江丸 美加保丸 鶴港丸 龍翔丸

長鯨丸 奇捷丸 行速丸 千歳丸 飛龍丸

同邦製諸船

鳳凰丸 昌平丸 鳳瑞丸 大元丸 旭日丸 君澤形

長崎形 箱館丸 龜田丸 先登丸 千代田形

船印

〔和漢船用集用具〕幟 諸侯大夫士各定れる御船印あり、或は吹貫あり、幟の小を小ざしと呼、商船  
に至ては、何丸と云舟名をゑるし、又は定紋合印を染込、用て式日には必立、是則禮旗なり、

〔太閤記〕大隅日向知行割之事

秀吉中略 關戸に至て御渡海有し所へ、御迎舟多く浮出たり、船を問せ給へば、大和中納言